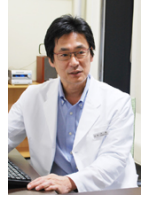


(2010年09月08日実施)

第3回 JOMF 特別企画セミナー 東京開催のご報告 (記事スタイル)

9月8日、LEN貸会議室「西新橋」において『海外に人を派遣する企業の為の予防接種 Q&A ~あなたの疑問にズバリ回答!~』と題し、渡航医学センタ西新橋クリニックの大越裕文先生をお招きして第3回 JOMF 特別企画セミナーが開催されました。大雨にも拘わらず、参加された38名が大越先生の明快なプレゼンを熱心に聴講、その後の Q&A オンサイトでも活発な質疑応答が展開されました。



大越裕文先生

—今回は台風の影響で東京は大雨でしたね？

A: そうです。JOMF から会場まで歩いて 300m ほどを移動するだけでもずぶ濡れになりました。虎ノ門や霞が関、新橋から歩いてこられる方には10分以上、一番近い御成門駅からでも数分を要する場所なので、もしかすると当日のドタキャンが相次ぐのではと心配していましたが、会場には総勢 38 名の方にお運び戴きました。無断でキャンセルされた方もなく、みなさんきっちりとしていらっしゃるというか、非常に熱意と情熱をもった方ばかりだったように思います。あと、前日までに「セミナーには来てもらえますね？」という確認をお願いしていたので、参加すると回答した方々には「一旦行くと断ったからなあ」とプレッシャーを事前にかけて過ぎたかもしれませんが・・・参加の方には申し訳ありませんでした:笑
参加者の中には到着時点で濡れ鼠の方もいらっしゃいましたし、帰り道、品川駅や千葉駅で JR 線が 1 時間以上停まってしまったという連絡を翌日入れてくれた方もいらっしゃいました。天気だけは事務局では選べないので、テルテル坊主を作ったのですが、皆さんの熱意には感謝の気持ちでいっぱいです。

—38 名の内訳は？

A: 男女別では女性 24 名、男性 14 名。職種別では医療従事者 13 名(医師 3 名、看護師・保健師 10 名)、人事・総務・安全管理 22 名、その他 3 名でした。女性が多いという傾向は前回のセミナーと同様ですね。



いつもダンディな大越先生は、今でも鎌倉あたりを走る現役アスリート

—今回「予防接種」を取り上げた理由は？

A: 前回の東京・大阪会場でのミニセミナーのアンケート結果と昨年 10 月の海外医療情報交換会のアンケートを見て、メンタルとともに予防接種についてのご希望が多かったことから決定しました。

—今回セミナーのタイトルについて、どの様に決まった？

A: 実は、この春から大越先生の西新橋クリニックには 10 回以上足を運んでいまして、今回のセミナーについて、対象者をどのように設定し、話題の展開はどのようにしようか、アイ・キャッチーで、会員企業の皆様に「これは参加してみたいな」と思って頂くにはどんなタイトルにしようか、そして、それにはどんな下準備がいるのだろうか等について大越先生と話を煮詰めてきたのです。時折お酒の場も持ったりしましたが:笑。そんな中で、大越先生から、「スライドネタは十分あるので、参加される方からなんでも聞いてください。どんな質問でもズバリ回答しちゃいます」というのはどうかというご提案があり、今回のサブリード『あなたの疑問にズバリ回答!』が生まれました。

—ずいぶん思い切ったタイトルですね

A: そうですね。大越先生が冗談交じりに「なんでも聞いて下さい。僕が困るような質問も大歓迎!」等と仰るものですから、それではということで会員の皆様への募集時も含め参加希望者の皆さんに「どんどん質問して下さい!」と誘いをかけまして、(先生が困るような質問大歓迎とまでは書きませんでした)「本日まで何社の方から幾つの質問が来ています! 他の人の質問を見て何か別の質問が思いつくかもしれませんので、これまでの質問をまとめて送付します!」等と参加者の皆様を煽りたてて(?)しました。

—参加希望者に働きかけた効果はあった？

A: 絶大でした。東京と大阪会場分含めて 8 社の方から 27 の質問が、入り(8 日の東京セミナー時点では 7 社 19 の質問)、先生はそれらの一つ一つにきちんと回答を用意していただけたし、セミナー後に名刺

交換をした際にも、「私の質問が取り扱われていたのには感激」と、ニコニコと語ってくれた方が何名もいらっしゃいました。通常のセミナーはどちらかというと一方通行的になりがちで、「質問はありませんか？」と司会者が聞いてみても「シ〜ン」としてしまふこともありがちなものです。今回は、セミナー参加者が講師の大越先生と一体となったような感じが強くなりました。ワンウェイではなく、ツーウェイコミュニケーションの場になったと思います。この「ズバリ回答！」シリーズを今回以後のセミナーでも使えるときは使ってみてみたいと思います。

—主な内容は？

A: 海外赴任の際に赴任者やそのご家族の方からよく質問されて人事担当が戸惑うような問題が中心になっていました。大越先生は、それらの質問に一つ一つ回答し、さらに最後にその病気と予防接種に関する纏めのスライドを三段構えで準備されていたので、聞いていた方には極めて理解し易かったと思います。予防接種の基本に関するもの、地域(国)別の予防接種に関するもの、出張と予防接種に関するもの、接種回数に関するもの、各々の病気(黄熱病・A型肝炎・B型肝炎・破傷風・狂犬病・結核・日本脳炎・ポリオ・腸チフスやはしか、コレラ等)に関するものといった構成で纏められていました。

—特に印象深かったものはありますか？

A: 二つあげましょう。① B型肝炎感染者に対する差別について、中国では就職ができない、入学拒否される場合があるという話や日本でも急性肝炎については偏見の目で見られるという話を先生の知人の例を引きながらされていたこと。②日米の結核に関する状況が違う(日本は結核流行国、アメリカは感染リスク無し)ということに起因するものなのですが、米国人医師と駐在員ご家族の奮闘の様子が手に取るようにわかる質問に対するその大越先生回答が印象的でした。

—もう少し詳しく

A: ツベルクリン(TB)テストを受けたご家族が、陽性と判断されてしまい、小さいときに BCG を打っていると説明すれども、薬を処方され、家族全員 TB テストを受けさせられ、薬代に 60ドル『盗られ』、TB テストにも 60ドル『盗られ』、合計 7 回も病院に『行かされ』た。一体アメリカ人医師はどうなっているんだ？という質問の趣旨でした。質問者の『盗られた』という表現が生々しくリアリティがあったので、大越先生もそのままスライドにして、日米の結核に関する認識の差を説明、この種のトラブル回避策として医師の署名付き証明書を持参するとよいといったアドバイスをされていました。米国人医師が BCG のことを知らないというのも自国中心でしか考えないというアメリカ人の特質を語っているなどとも思いました。

—次回ミニセミナーは？

A: この東京で開催した内容に追加で質問が来ていた 8 問を加え若干の補筆を行い、9 月 15 日に、大阪の商工会議所で第 4 回として実施します。
また、次弾の内容としては、10 月 29 日午後東京如水会館で行われる海外情報交換会の講演会(外務省鈴木満先生によるメンタルヘルス ABC)を受け、東京以外の地区でもメンタルに関するものを情報交換会フォロー版として 11 月頃をめどに実施できればと考えています。お楽しみにしてください。



看護師保健師の方を中心に女性が参加者の 6 割を占めました。(写真左)



大越先生のお話真剣に聞き入る参加者の皆さん。(写真右上・右下)

大越先生のお話をききながら、「これは聞き逃さない」というところでは、熱心にメモをとる人も(写真左)
当日は、事前質問とその回答に加えて、その場でも多くの質問が寄せられました。
『私の質問に真っ先に答えてもらえてよかったです！』と事務局に名刺交換にこられた参加者には笑顔が見られ、当日の天気とは対照的でした！

